

実践2

「北の国から」発信

しよう——他の地域の人にとつての未知を考える

使用教材

「多様な方法で情報を集めよう」(二年／「書くこと」)

北海道札幌市立向陵中学校教諭

高橋 伸たかはし しん

1 はじめに

自分とは違う場所に暮らす人と、それぞれの土地の特徴について交流する時間は、とても楽しいものである。テレビでもよく、地域の食や習慣の違いを取り上げている。私たちは、たくさんさんの「地域オリジナル」をもちながら、それを「全国スタンダード」であると誤解している場面が多くある。本実践は、そのような地域オリジナルを正しく認識して、他の地域の人に新聞形式で発信しようという取り組みである。

「他の地域の人にとって、何が未知なのか」を捉えることはなかなか難しい。け

2 指導計画 (全五時間)

▼目標

○自分が住む地域についての情報をさまざまな方法(学校図書館、インターネット、身近な人への取材)で集め、自分の考え

をまとめる。

○新聞の下書きを読み合い、情報の使い方や構成のしかたを交流することで、よりよい作品を作り上げる。

▼展開

第一時

・学習の見通しをもち、既習の事柄とのつながりを考える。

・教科書を読んで、学習の流れを捉える。

・学校図書館やインターネットを使って、記事にする情報を複数集める。身近な人への取材も試みる。

第二時

・収集した情報を交流し、テーマを決める。

・本物の新聞から学んだ新聞のルールをもとに、記事の構成や見出しを考える。

第三時

・集めた情報をもとに下書きをする。

第四時

・下書きをグループで読み合い、工夫した点や改善点を交流する。

第五時

・前時の交流を生かして清書する。
・交流場面や完成した新聞から学びを振り返る。なお、新聞は廊下に掲示し、他のクラスの作品も見られるようにした。

③ 指導の工夫・学習の実際

①未知を考える

テーマ選びの際には多くの候補を挙げ、交流を通して絞り込んでいった。他の地域で暮らした経験をもつ級友などの意見を聞きながら、他の地域の人が知らないことを探っていった。

【生徒が取り上げたテーマ】

- ・地域特有の食べ物やその名前
 - ・道路や信号、タイヤなど、交通について
 - ・言葉や言葉の使い方
 - ・屋根や窓、玄関など、建物の工夫
- 「衣」に関わる冬支度について

② 広く情報を収集する

情報収集のために、学校図書館を利用する時間を設けた。今回のテーマでは、社会科学や産業の棚へ足を運ぶ生徒が多かった。図書館に足繁く通う生徒でも、文学のコーナーにしか行かないことが多い。また、図書館にほとんど行かない生徒の中には、文学以外の本も所蔵されているということを初めて知った者もいた。図書館で事典類を初めて手に取り、それらが情報収集に役立つことを実感している生徒もいた。

③新聞の構成を活用する

今回の新聞では、一つの記事の字数を二百字から四百字程度に設定した。この字数は、調べた複数の情報を組み合わせるのに適している。

重要度が高い記事は、見出しが大きく字数も多いこと、見出しは記事の要約となることなど、実際の新聞の構成は、情報伝達の工夫を学ぶのに適している。部分的に記事を入れ替えることが可能なことも、新聞

溝上先生が見る
社会生活へ
つなげるポイント

実践では、情報の収集、構成といった個人学習だけでなく、他者と議論や助言をし合うなどの協働的活動も組み込まれています。このようにバランスよく個人的・協働的な学習を行っていくことが重要です。本実践が興味深いのは、身近な他者(家族)に取材をさせているところです。国語の授業では、登場人物や書き手といった「他者」の気持ちや考えを理解する、共感するといった学習が、小学校以来定番のものとなっていますが、生徒にとってその他者は非日常空間の他者であることが多いといえます。身近な他者への取材はその「他者」を、生徒にとっての日常空間へと一気につなげます。

紹介されている「生徒のアドバイス」も、生徒に技術化させるべく学習課題としたいところです。多くの生徒は質問をすることが苦手です。トレーニングを受けることが生徒は、質問が止まらないというのを何度も見たことがあります。こうした一つ一つの小さな実践を積み上げていくとよいのではないのでしょうか。

④ 清書の前の交流を有効活用する

下書き段階での交流により、互いにアドバースをし合ったり、他の人のよい点を自分の新聞に反映したりすることができる。

【生徒のアドバイス（交流の中から）】

- ・下の記事を先に読んだほうが理解しやすいので、上の記事と入れ替えた方がいいと思います。
- ・使っているデータより新しいものが市のホームページに出ていますよ。
- ・見出しは、記事の結論部分を短くして書くといいです。

⑤ 学びの見通しと振り返り

学習の初めに、既習事項とこれからの学習を結び付ける時間を設けた。小学校や中学校一年生で学んだことを思い出し、それがこの学習で使えるそうだと考える生徒がいる。また、教師が新たに説明しようとしたことが、他教科の既習内容である場合もある。このようなことを踏まえて、学習の終

北緑新聞

向 渡 中 学
2 年 1 組

向陵中学校
2年1組

わりまでの見通しを、生徒一人一人がもつことが大切である。そして、最後に学びを振り返ることで、今回学んだことを次の学びへと結び付けやすくなる。

4
おわりに

地域や社会生活とつながる授業の実現は、なかなか難しい。本校国語科では、生徒

北の混交林

五月上旬北北海道で
霜と雪が同時に明か
す。本州では海は寒い
にふしあつて花が咲く
に及ばず、これほどい
うことばうらうか。こ
れは、北海道の気候に
おける性質が関係して
ゐる。海は冬の休眠が浅
いから、三月半ばで積
雪が止まると、五月程か
つて氷凍はつてく一方

海は、長い寒い時期が
続くが、休眠が破つとい
ふ状態になる。これは一
時的に外敵で、その
状態に耐へる性質で、そ
の間に花芽を準備して、
してゐる。それだから、そ
して温かくなると急に
スグに花に開花する。
しかし、雪が止つて休眠
打破にはつてゐないから、
九州に開花する日開花が

海よりもおそく、北
本ではお花打破になり
一頃に開花する。こ
うして北に上るにつ
れて、花は遅くなる。
そして、春線より
三月程おそく、春線より

北

北海道の森林、針葉
樹と広葉樹の混生。花

[illegible]

森林の広さ

るも約八七万平方キロメートルある。北海道の自然は雄大な広さを誇っており、全国一位である。これは、なほみかである。それと同時に、人間も森林に支えられ生きていくことを、忘れてはいけぬのである。

身近な変化

は昔は北海道にはス
ているようだ。対策
半は生息しているか
をとるべきなへでは。

世界遺產

二〇〇五年知事
が日本で三番目に世
自然遺産に認定され
今もなお自然そのも
の姿で維持されてお
る。野性の天然記念物
少種も生息している
千二百五十万ヘー
クタの山が連なり
の山々が海に面す。

編集後記

広大な自然は北海
の魅力である。保護
しなければという思
がより一層強まっ

▲生徒が作った新聞の例